OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	職業のライフスタイル=イメージ
Author(s)	高田, 洋
Citation	年報人間科学. 1998, 19, p. 89-100
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/10205
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

職業のライフスタイル＝イメージ

高田　洋

〈要旨〉

本稿は、特定の職業について人々が抱いているライフスタイルのイメージの分析を行う。二〇の職種に対する八つのライフスタイル＝イメージをとりあげる。数量化Ⅲ類の分析の結果、ライフスタイル＝イメージのステロタイプが抽出された。職種別の主成分分析の結果、職業のライフスタイル＝イメージに対するステロタイプは、威信的イメージ・マニュアルイメージ・自立的イメージという三つによって成り立っていることが明らかとなった。このイメージと実際に従事している職業、及び、実際に送っているライフスタイルとの関連を調べるため、重回帰分析を行った。その結果、人々に威信・自立・マニュアル（技能）のいずれかにおいて肯定的なイメージを持たれている職業に従事している人々は、イメージされているのとは別のライフスタイルを送ることにより、職業のライフスタイル＝イメージは独自の個性的なものとなっていく。それに対して、いずれかにおいて否定的なイメージを持たれている職業の従事者は、そのイメージどおりのライフスタイルを送ることにより、ステロタイプ的なイメージを持つようになる。

キーワード
ライフスタイル
職業イメージ
ライフスタイル＝イメージ
職業評価
職業威信

一　職業のイメージとライフスタイル

本稿は、ある特定の職業について人々が抱いているライフスタイルのイメージの分析を行う。人々は、職業に対して様々なイメージを持つ。そして、このイメージは、たとえば、「医者はお金持ち」、「警察はかたい」というように、職種によって判断されている。つまり、職種に応じたイメージを人々は持っている。本稿は、その中でも職業のライフスタイル＝イメージに特に焦点を当て、これがどのように構成されているかを明らかにする。

特定の職業に対して人々が抱くイメージを分析しているものとして、職業評価や職業の格付けの研究があげられる。

職業評価の実証研究は、階級意識との関連で分析されてきた。階級の連帯や敵対という意識を明らかにするために、職業に対する人々の距離感に注目したのである。そのため、職業評価は、職業に対する親近感や疎遠感といった社会的距離の認識を測ることを重視している。たとえば、池田は「好―悪、親近―反発、一致―対立といった社会的距離認識」[1]に焦点をあて、回答者自身の職業と職業評価との関連について分析している。職業評価の具体的な項目は、希望職業・縁組希望・親近感・利害一致についてであり、様々な職種からこれらの項目が当てはまるものを回答者に選ばせることによって変数は構成されている。その結果、連帯意識を表す利害一致感と親近感で選ばれる職業は、回答者の職業と一致しているが、「プレフアビリティ」を表す希望職業と縁組希望においてはそうではないことが分かっている。また、岡本・原は、職業の魅力評価の分析において、人々が望ましいと思っている職業の特性と回答者の年齢・学歴・職業・収入との関連を明らかにしている。[2]

しかし、これらの研究は、対象職種に対するライフスタイルのイメージを分析したものではない。職業特有のライフスタイル＝イメージを考慮できれば、どういった職種がどういったイメージを持たれているために、距離が開くとか魅力が増すとかといった問題を分析することが可能となる。

また、職業の格付けの研究において、職業威信は、「職業について高いか低いか」といった一般的な問いをもとに、構成されている。特定の職業に対してどのようなイメージをもって人々は高いか低いかを判断しているのかを分析することができれば、職業威信の形成要因が明らかになる。

一方、職業特有の実際のライフスタイルについての研究は、古くからの研究課題であったし、近年ではブルデュー[3]を代表として多い。これらの研究は、回答者自身の実際のライフスタイルに着目しており、他の職業についてのライフスタイル＝イメージに着目したものではない。しかし、人々は他の職業に対するライフスタイルのイメージを持つことにより、自己のライフスタイルとの区別を行っている。

このように、職業の社会的評価やライフスタイルの研究においても、職業特有のライフスタイル＝イメージの分析は重要である。

二　職業のライフスタイル＝イメージ

二・一　ライフスタイル＝イメージのステロタイプの抽出

従って、本稿では、特定の職業に対するライフスタイルのイメージをとりあげる。[4] 八つの具体的なイメージ（学歴が高い、収入が高い、技能を必要とする、仕事のやり方を自分で決められる、肉体的にきつい、精神的なストレスが大きい、人を動かす力が強い、文化的教養が必要とされる）を用いる。質問の仕方は、二〇の具体的な職種（プロスポーツ選手、中小企業の事務員、医師、大工、中小企業の経営者、レストランのコック、自動車の修理工、市役所の課長、服飾デザイナー、警察官、大会社の営業社員、小学校の教諭、看護婦、農業、ウェイトレス、バス運転手、小売店主、自動車設計技術者、土木・建築の現場監督）の中から、先の八つのイメージについて、回答者が当てはまると思うものをいくつでも選んでもらうという方式である。これらの項目は、職業のライフスタイルに対する人々のイメージを表している。

このすべての変数（項目八・職種二〇の一六〇の変数のうち欠損値を除く一五九の変数）[5]を数量化Ⅲ類[6]で分析した。数量化Ⅲ類により、二〇の職業の八つのライフスタイル特性を包括的に分析することができる。そして、この数量を職種ごとに見ることにより、人々のライフスタイル＝イメージのパターンが明らかになる。

数量化Ⅲ類の結果、第一数量を分析に用いることにする。サンプル数量とカテゴリー数量の相関は〇・三五である。カテゴリー数量を職種と項目ごとに記したのが表一である。表の括弧内はすべての変数の中での通し順位を表している。

通し順位に着目すると各職業に対する人々のイメージ上での格付けを見ることができる。たとえば、医師は「収入が高い」が最も数量が高く、最も低いのは「文化的教養」ということになる。これは医師という職業に対するイメージの紋切り型的な順位を表している。他の職業についても表を見ると、その順位は人々のステロタイプ的なイメージを表現していると思われるため、この数量を、職業ライフスタイル＝イメージのステロタイプとする。

二・二　ステロタイプのパターン

表一の順位は、すべての数量に対する通し順位であったが、同様に職種ごとにも、ステロタイプの順位をつけることができる。順位を職種ごとに振り替えたのが表二である。これを見ると、その順位のパターンには似通った職種があることに気づく。たとえば、大工と修理工は四つの特性で同じ順位を示しており、他の順位についても大幅な違いはない。この関連をすべての職種について確かめるためにスピアマンの順位相関係数を見たのが表三である。[7] この表の中で正の相関が〇・六〇以上（検定の結果、一〇％水準以上で有意であることを示す）あるものが強調表示されている。

この表から、職業のステロタイプのパターンは概ね三種類であることがわかる。農業・修理工・大工・コック・現場監督・ウェイト

表一　職種別カテゴリー数量と順位

項目/職種	医師		小学校の教諭		中小企業の経営者		自動車設計技術者	
学歴が高い	0.76	(3)	0.79	(2)	-0.60	(72)	0.37	(27)
収入が高い	0.80	(1)	-0.48	(68)	0.45	(19)	0.04	(45)
技能を必要とする	0.51	(15)	-0.45	(66)	-1.93	(110)	0.71	(5)
仕事のやり方を自分で決められる	-0.16	(53)	-0.63	(74)	0.73	(4)	-0.77	(79)
肉体的にきつい	-0.05	(49)	-1.32	(94)	-1.50	(98)	-3.36	(131)
精神的なストレスが大きい	0.51	(14)	0.25	(33)	0.07	(43)	-0.96	(84)
人を動かす力が強い	-0.28	(61)	0.06	(44)	0.68	(7)	-1.81	(108)
文化的教養が必要とされる	-0.30	(63)	0.40	(26)	-1.06	(86)	-1.48	(97)

項目/職種	プロスポーツ選手		大工		自動車修理工		小売店主	
学歴が高い	-1.64	(105)	-2.36	(117)	-4.13	(142)	-4.94	(147)
収入が高い	0.69	(6)	-0.54	(71)	-2.34	(116)	-0.25	(58)
技能を必要とする	0.42	(21)	0.58	(8)	0.57	(9)	-3.86	(139)
仕事のやり方を自分で決められる	-0.54	(70)	0.33	(30)	-0.64	(75)	0.56	(10)
肉体的にきつい	0.55	(12)	0.32	(31)	-0.19	(54)	-2.31	(114)
精神的なストレスが大きい	0.04	(46)	-3.49	(133)	-3.91	(141)	-1.32	(93)
人を動かす力が強い	-0.24	(57)	-0.98	(85)	-2.88	(122)	-0.51	(69)
文化的教養が必要とされる	-3.01	(124)	-4.70	(146)	-8.07	(158)	-3.43	(132)

項目/職種	看護婦		農業		土木・建築の現場監督		服飾デザイナー	
学歴が高い	-0.21	(56)	-5.04	(150)	-0.35	(65)	-1.20	(89)
収入が高い	-0.30	(62)	0.14	(40)	-0.34	(64)	0.44	(20)
技能を必要とする	0.41	(22)	-0.67	(76)	0.19	(37)	0.49	(17)
仕事のやり方を自分で決められる	-2.61	(120)	0.53	(13)	0.11	(41)	0.41	(24)
肉体的にきつい	0.55	(11)	0.49	(18)	0.07	(42)	-3.67	(135)
精神的なストレスが大きい	0.34	(29)	-3.24	(128)	-0.78	(80)	-1.30	(91)
人を動かす力が強い	-1.52	(99)	-1.91	(109)	0.50	(16)	-0.60	(73)
文化的教養が必要とされる	-2.64	(121)	-5.65	(152)	-3.32	(130)	0.40	(25)

項目/職種	大会社の営業担当社員		市役所の課長		レストランのコック		警察官	
学歴が高い	0.36	(28)	0.32	(32)	-3.87	(140)	-0.19	(55)
収入が高い	-0.08	(50)	-0.26	(60)	-1.66	(106)	-1.08	(87)
技能を必要とする	-3.24	(127)	-3.82	(138)	0.24	(34)	-1.44	(96)
仕事のやり方を自分で決められる	-0.91	(82)	-1.58	(100)	-0.26	(59)	-3.80	(137)
肉体的にきつい	-1.16	(88)	-9.92	(159)	-0.75	(77)	0.15	(38)
精神的なストレスが大きい	0.41	(23)	-0.09	(51)	-3.04	(125)	-0.10	(52)
人を動かす力が強い	-0.47	(67)	0.20	(36)	-1.59	(102)	0.22	(35)
文化的教養が必要とされる	-0.76	(78)	-0.80	(81)	-2.89	(123)	-2.01	(112)

項目/職種	バス運転手		商店の店員		中小企業の事務員		ウェイトレス	
学歴が高い	-4.98	(148)	-5.03	(149)	-2.13	(113)	-6.86	(155)
収入が高い	-2.40	(118)	—	—	-1.62	(104)	-4.49	(145)
技能を必要とする	0.14	(39)	-4.22	(144)	-3.29	(129)	-4.20	(143)
仕事のやり方を自分で決められる	-2.33	(115)	-0.93	(83)	-1.58	(101)	-1.94	(111)
肉体的にきつい	-0.01	(48)	-1.72	(107)	-5.54	(151)	-1.40	(95)
精神的なストレスが大きい	0.03	(47)	-2.56	(119)	-1.32	(92)	-3.08	(126)
人を動かす力が強い	-1.59	(103)	-1.22	(90)	-3.72	(136)	-3.59	(134)
文化的教養が必要とされる	-7.44	(157)	-5.66	(153)	-6.06	(154)	-6.95	(156)

レス・看護婦・プロスポーツ選手・バス運転手、そして市役所課長・営業社員・小学校教諭、および医者・設計技術者の三つのグループである。その区分は、マニュアル―ノンマニュアル、ノンマニュアルの中でも一般職―専門職という二つでなされている。イメージのパターンはこの二つの区分によって成り立っている。しかし、この分析では、職業の各項目評定の距離や数量の大きさが考慮されていず、さらに分析が必要となってくる。

表二　職種別のカテゴリー数量の順位

	学歴	収入	技能	やり方	きつい	ストレス	動かす力	教養
医師	2	1	3	6	5	3	7	8
小学校の先生	1	6	5	7	8	3	4	2
中小企業の経営者	5	3	8	1	7	4	2	6
自動車設計技術者	2	3	1	4	8	5	7	6
プロスポーツ選手	7	1	3	6	2	4	5	8
大工	6	4	1	2	3	7	5	8
自動車修理工	7	4	1	3	2	6	5	8
小売り店主	8	2	7	1	5	4	3	6
看護婦	4	5	2	7	1	3	6	8
農業	7	3	4	1	2	6	5	8
土木・建築の現場監督	6	5	2	3	4	7	1	8
服飾デザイナ	6	2	1	3	8	7	5	4
大会社の営業担当社員	2	3	8	6	7	1	4	5
市役所の課長	1	4	7	6	8	3	2	5
レストランのコック	8	5	1	2	3	7	4	6
警察官	4	5	6	8	2	3	1	7
バス運転手	7	6	1	5	3	2	4	8
商店の店員	6	—	5	1	3	4	2	7
中小企業の事務員	4	3	5	2	7	1	6	8
ウェイトレス	7	6	5	2	1	3	4	8

表三　ステロタイプのスピアマン順位相関係数

	Waitress	運転	店主	修理	Sports	課長	先生	農業	Cook
大工	.50	.52	.21	***.95***	.52	-.62	-.76	***.83***	***.88***
服飾デザイナー	-.38	-.05	.17	.31	.10	-.19	-.12	.19	.48
大企業の営業担当社員	-.29	-.31	.07	-.71	-.17	***.86***	***.60***	-.50	-.88
自動車設計技術者	-.43	.02	-.29	.14	.02	.14	.24	-.05	.02
医師	-.12	.13	-.13	.18	.54	.22	.00	.12	-.24
中小企業の事務員	.26	.24	.43	.07	.19	.29	-.05	.26	-.14
看護婦	.43	***.71***	-.38	.55	***.64***	-.31	-.29	.24	.17
土木・建築の現場監督	.45	.50	.29	***.71***	.33	-.21	-.52	***.60***	***.76***
中小企業の経営者	.19	-.26	.81	-.19	-.14	.45	-.10	.26	-.10
警察官	.31	.33	-.07	-.02	.33	.33	.02	-.10	-.24
レストランのコック	.50	.52	.29	***.88***	.38	-.76	-.76	***.74***	
農業	***.74***	.38	.62	***.83***	***.60***	-.60	-.95		
小学校の先生	-.74	-.40	-.57	-.83	-.67	***.74***			
市役所の課長	-.45	-.38	-.07	-.71	-.38				
プロスポーツ選手	.43	.57	.29	***.69***					
自動車修理工	***.62***	***.69***	.21						
小売店主	.48	.02							
バス運転手	***.64***								

	警察	経営	監督	看護	事務	医師	技術	営業	Designer
大工	-.19	-.07	***.76***	.38	.12	.19	.31	-.71	.45
服飾デザイナー	-.67	.07	.31	-.33	.10	.12	***.64***	-.36	
大企業の営業担当社員	.31	.43	-.52	-.17	.50	.37	.05		
自動車設計技術者	-.50	-.12	.02	.10	.45	***.65***			
医師	.08	-.10	-.11	.52	.55				
中小企業の事務員	-.14	.52	-.05	.07					
看護婦	.48	-.60	.17						
土木・建築の現場監督	.21	.19							
中小企業の経営者	-.02								

注).60 以上を強調表示。これは 10%以下の水準で有意であることを示す。

二・三　職業ステロタイプの潜在構造

職業のステロタイプ＝イメージがどのような潜在因子によって成り立っているのかを調べるために、表一のカテゴリー数量の行列をもとに主成分分析を行い主成分を測定してみる。主成分分析の結果は表四の通りである。三つの主成分の累積寄与率が八三・四％もあり分散のほとんどを説明している。かなり適合がよい。三つの因子負荷量のパターンは、表が示すとおり、はっきりと表れている。

表四　職業のステロタイプの主成分分析

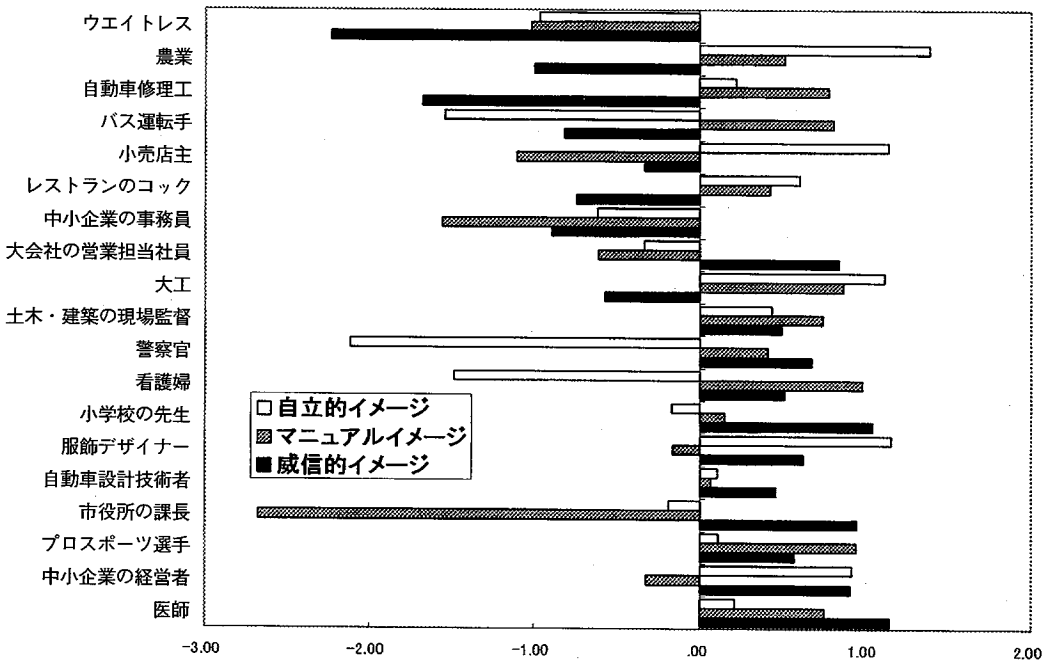
質問項目	共通性	因子負荷量 威信的イメージ	マニュアルイメージ	自立的イメージ
学歴が高い	.834	.907	.002	-.109
文化的教養を必要とする	.856	.903	-.134	.153
人を動かす力が強い	.732	.834	.085	.171
精神的なストレスが大きい	.843	.817	-.078	-.412
収入が高い	.867	.802	.135	.454
肉体的にきつい	.808	-.155	.885	-.039
技能を必要とする	.783	.149	.859	.149
仕事のやり方を自分で決められる	.950	.057	.069	.970
固有値		3.7	1.7	1.2
寄与率		46.6	21.7	15.1
累積寄与率		46.6	68.4	83.4

注)バリマックス回転後の因子パターン

第一主成分は、学歴・教養・収入・権威（人を動かす力が強い）・ストレスといった職業の威信を示唆する変数によって構成されており、威信的イメージとする。この因子スコアと、職種ごとの威信スコア[8]との相関が〇・八一ととても高く、このことからも威信的イメージを確認できる。第二主成分は、技能や肉体労働と関係するマニュアル―ノンマニュアルという軸を構成しているので、マニュアルイメージとする。第三因子は、職業の自立性を表しているので自立的イメージとする。第三因子は、仕事を自ら決めてやっていくという専門職的なイメージでもある。二・二節の順位相関の分析で予想されたとおり、第二因子と第三因子は、マニュアル―ノンマニュアル、一般職―専門職の軸をそれぞれ表している。

各職業についてこれらの三つの因子スコアをグラフ表示したのが図一である。

医者・経営者・市役所課長・小学校の先生は威信的イメージが強い。しかし、医者はマニュアルイメージも同時に持たれているが、他の三つの職種はあまりマニュアル的なイメージはもたれていない。特に市役所課長は一九の職種の中で最もノンマニュアル的なイメージを持たれている。市役所課長はもっとも技能と肉体労働が必要でないとイメージされているということになる。また、四つの職種の中で経営者は自立的イメージを持たれている。



図一　職種別のライフスタイル＝イメージのステロタイプ

自立的イメージは、他にも農業・小売店主・大工・服飾デザイナーが強い。農業や大工は、実際、それほど自分のやり方で仕事できるわけではないが、人々には自立的であると思われている。この四つの中で服飾デザイナーだけが威信的イメージにおいて正の値を示している。他の三つはいずれも負である。

マニュアルイメージは、自動車修理工・バス運転手・大工・現場監督という実際のマニュアル労働者と、看護婦・プロスポーツ選手といった本来は専門職に分類されている職種において、高い値を示している。看護婦は最もマニュアルイメージが強い。

警察官は非自立的なイメージがすべての職種の中でもっとも強い。非自立的な他の職種はバス運転手と看護婦である。ウェイトレスは、最も威信的イメージがなく他の二つも負である。事務員は、ノンマニュアルのイメージを持たれている。コックは自立的であるが威信的でないとイメージされ、営業社員は威信的であるが技能を持っていない、設計技術者はやや威信的であると思われている。

これらの結果をまとめると次のようになる。威信的イメージ主導の職種は、医師・市役所課長・技術者・小学校先生であり、自立的イメージは、経営者・デザイナー・大工・コック・小売り店主・農業、マニュアルイメージは、スポーツ選手・看護婦・現場監督・運転手・修理工である。そして、非自立的イメージが警察官、非威信的がウェイトレス、ノンマニュアルが事務員となる。

このように職業のステロタイプは、威信・マニュアル・自立という三つの潜在因子によって成り立っていることが明らかとなった。

三　ステロタイプの形成要因の因果分析

三．一　ステロタイプの潜在因子による職業の分類

このステロタイプは、実際に送っているライフスタイルとどのような関連を持っているのであろうか。

ステロタイプの三つの因子スコアの正負に注目すると、一九の職種を八つに分けることができる。この職種は、同じような他の職業の代表であると考え、対応づけを行った。

たとえば、威信的・自立的・マニュアル的イメージを人々に持たれているのは、医師・プロスポーツ選手・自動車設計技術者・現場監督であった。この四つの職種は、技能や運動能力のある専門職を代表しているので、技能専門職を表している。同様に、他の七つの分類それぞれについても、職業を当てはめたのが表五である。表の職業カテゴリーの欄の右に代表されている職業を記した。

ここで注意を要するのは、まず、大企業の営業担当社員と中小企業の事務員である。これは、営業職と事務職の区別と言うよりは、大企業と中小企業の区別であると思われる。なぜなら、イメージで異なっているのは威信的イメージのところのみであるからである。次に、ブルーカラー層は二つに分けられる。技能を持つ熟練ブルーカラーとそうではないブルーカラーである。前者は自立的で、後者は非自立的であると思われている。また、専門職は三つに分けられる。技能や技術を持つ専門職と、知性や芸術性をもつ専門職、そし

表五　ステロタイプの潜在因子による職業の分類

威信的イメージ

	マニュアルイメージ		ノンマニュアルイメージ	
	職種	職業カテゴリー	職種	職業カテゴリー
自立的イメージ	医師 プロスポーツ選手 自動車設計技術者 土木・建築の現場監督	技能的専門職	中小企業の経営者	経営管理職
			服飾デザイナー	知的専門職 芸術的専門職 議員
非自立的イメージ	小学校の先生	教諭	市役所の課長	公務員
	看護婦	保険・医療・サービス専門職	大企業の営業担当社員	大企業ホワイトカラー
	警察官	保安的職業		

非威信的イメージ

	マニュアルイメージ		ノンマニュアルイメージ	
	職種	職業カテゴリー	職種	職業カテゴリー
自立的イメージ	大工 レストランのコック 自動車修理工	熟練ブルーカラー	小売店主	販売的職業
非自立的イメージ	農業	農業		
	バス運転手	半非熟練ブルーカラー	中小企業の事務員	中小企業ホワイトカラー
			ウェイトレス	社交接客職

て、他の経営者または管理者のもとで働く専門職である。

このようにステロタイプの潜在因子によって職業を八つに分類した。この分類ごとにステロタイプの形成要因を分析するのだが、この八つの分類をそのまま使うと、各職業分類のサンプルが小さくなり、分析の妥当性を欠く。そのため、威信的であるか威信的でないか、自立的であるか自立的でないか、マニュアル的かノンマニュアル的かというようにサンプルをそれぞれ二分して分析を行う。

三、二　ステロタイプを形成する変数

どのようにライフスタイル＝イメージのステロタイプが形成されているのかを検証するために、次の変数を用いて重回帰分析を行う。

被説明変数は、二節の数量化Ⅲ類分析による第一サンプル数量を用いる。この変数は、その数量が大きいほど、表一にあげたような、ステロタイプ的な職業のライフスタイル＝イメージを持つということを示す。この変数の因果関係を、回答者が実際についている職業の分類別に見ていくと、実際とイメージとの関係が明らかになる。

説明変数は、まず、年齢・世帯収入・教育年数・職業威信・企業規模・居住地の人口密度をコントロール変数とする。年齢は九五年時点での満年齢である。世帯収入と人口密度は、その自然対数をとっている。教育年数は、最終学歴までの延べ年数、職業威信は職業威信スコア、企業規模は勤めている会社の従業員数である。

マニュアル的なライフスタイルを回答者が送っているかどうかは、階級帰属意識で測ることにする。つまり、労働者階級であると思っていれば、マニュアル的なライフスタイルであるということになる。この変数を労働者階級帰属意識（労働者階級と思うとき一、資本家または中産階級と思うとき〇をとる）とする。

自立的なライフスタイルを送っているかどうかは、次の四つの質問によって構成する。つまり、「次にあげることがらは、あなたにとってどのくらい重要ですか」という質問に対する「ボランティア活動、町内会活動など社会活動で力を発揮すること」、「趣味やレジャーなどのサークルで中心的役割を担うこと」、「家族から信頼と尊敬を得ること」と、「あなたにとって次のような気持ちや考えはどの程度当てはまりますか」という質問に対する「これからは、物質的な豊かさよりも、心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きを起きたいと思う」という項目であり、よくあてはまる、または、重要であると答えると大きい数値をとるようになっている。因子分析によって、この四つに大きな負荷量を持つ因子のスコアを用いる。その因子スコアを自立私生活志向とし、より大きい値をとる方が、その志向を持つライフスタイルを送っているということになる。

威信的なライフスタイルを送っているかどうかは、同様に次の五つの変数に大きな負荷量を持つ因子スコアを用いる。つまり、「次にあげることがらは、あなたにとってどのくらい重要ですか」という質問に対する「高い収入を得ること」、「高い地位につくこと」、「多くの財産を所有すること」、「社会的評価の高い職業につくこと」、「高い学歴を得ること」の五つである。この因子スコアを地位志向とする。より大きいスコアを持つ人ほど地位を大切にするライフスタイ

ルを送っているということになる。(9)

三、三　ライフスタイルのステロタイプの形成要因

各分類ごとの重回帰分析は表六に示されている。

これを見ると各イメージのいずれかにおいて、正のイメージをもたれている職業についている人々においては、イメージをもたれていない他のライフスタイルに対応する志向を持っていること、つまり、イメージと異なるライフスタイルを送っている人ほど、非ステロタイプイメージを形成するという結果になっている。自立的イメージを持たれている職業に従事している人々は、マニュアル的であるほど、また自立的であるほど、非ステロタイプイメージを持つようになる。マニュアルイメージの職業従事者は自立的であるほど非ステロタイプイメージを持っている。しかし、威信的イメージの職業では、マニュアル的であるほどステロタイプになり、ここだけ逆の効果がある。

イメージのいずれかが否定的である職業においては、おおむね有意な効果がない。また、決定係数等を見ると重回帰モデルとしても妥当ではない。非自立的なイメージを持たれている職業の従事者のみ、自立私生活志向の負の効果がある。これは、非自立的なライフスタイルつまりイメージと同じライフスタイルを送っている人ほどステロタイプになるということである。否定的なイメージの職業につくと、実際のライフスタイルとイメージが一致する。

この結果、人々に威信・自立・マニュアル（技能）のいずれかに

表六　職業ライフスタイル＝イメージのステロタイプへの重回帰分析：男性、職業別

独立変数	職業区分 威信的イメージ		自立的イメージ		マニュアルイメージ	
	威信的	非威信的	自立的	非自立的	マニュアル	ノンマニュアル
年齢	.016 *	.003	.004	.011 *	.008 +	.005
	(2.233)	(.752)	(.952)	(2.095)	(1.871)	(.814)
世帯収入(対数)	-.153	.032	-.026	.051	-.047	.119
	(-.977)	(.411)	(-.304)	(.455)	(-.587)	(.919)
教育年数	.034	-.055 *	-.051 *	-.010	-.028	.005
	(.918)	(-2.317)	(-2.029)	(-.347)	(-1.185)	(.134)
職業威信	-.009	.015	-.005	.001	-.002	-.005
	(-1.093)	(1.180)	(-1.019)	(.112)	(-.445)	(-.514)
企業規模	3.653E-05	2.518E-04 +	2.985E-04 *	1.525E-04	1.943E-04 +	1.071E-04
	(.180)	(1.787)	(1.989)	(1.162)	(1.787)	(.637)
居住地人口密度(対数)	.162 ***	.035	.068 *	.082 *	.068 *	.040
	(3.691)	(1.278)	(2.227)	(2.295)	(2.554)	(.863)
労働者階級帰属意識	.350 *	-.144	-.202 +	.169	-.117	.089
	(2.551)	(-1.305)	(-1.675)	(1.371)	(-1.060)	(.587)
自立私生活志向	-.117 +	-.040	.049	-.203 **	-.051	-.079
	(-1.680)	(-.851)	(.938)	(-3.524)	(-1.097)	(-1.062)
地位志向	.030	-.017	-.125 *	.086	-.088 *	.089
	(.457)	(-.355)	(-2.311)	(1.585)	(-2.006)	(1.125)
定数	-.690	-.258	.828	-1.233	.368	-1.017
	(-.668)	(-.312)	(1.286)	(-1.577)	(.616)	(-1.131)
決定係数	.213	.055	.102	.133	.094	.048
修正決定係数	.142	.022	.058	.087	.057	-.016
F検定有意水準	.003	.097	.016	.003	.008	.661
Valid N	110	266	195	181	231	145
N	137	350	260	227	304	183

注) 数値は偏回帰係数。括弧内はT値。有意水準(両側検定): + p <.10 * p <.05 ** p <.01 *** p <.001

おいて肯定的なイメージを持たれている職業に従事している人々は、イメージされているのとは別のライフスタイルを送ることにより、他の職業も含めた職業のライフスタイル＝イメージは独自の個性的なものとなっていく。それに対して、いずれかにおいて否定的なイメージを持たれている職業の従事者は、そのイメージどおりのライフスタイルを送ることにより、職業のライフスタイル＝イメージが、よりステロタイプ化する。しかし、後者の結果は、効果が一つしかなくこの確認は今後の分析の課題である。

注

（1）池田正敏、一九七三、「職業評価と階級意識」、安田三郎編、『現代日本の階層意識』三一～五八頁、有斐閣。

（2）岡本英雄・原純輔、一九七九、「職業の魅力評価の分析」、富永健一 編、『日本の階層構造』四二一～四三三頁、東京大学出版会。

（3）Bourdieu, Pierre. 1979. *La Distinction: Critique Sociale du Jugement.* 石井洋二郎 訳、一九九〇、『ディスタンクシオンⅠ・Ⅱ』、藤原書店。

（4）データは一九九五年ＳＳＭ調査データの威信票を使用した。

（5）商店店員に対して収入が高いと答えた回答者がいないためこの項目については欠損値となった。つまり、一五九の変数となる。

（6）この数量化Ⅲ類の分析は、山本嘉一郎氏（光華女子大学）のマトリックス版数量化理論（Ⅴ一・〇）を使用した。

（7）欠損値のある商店の店員を除いているため一九の職種になる。

（8）威信スコアは九五年版威信スコアを使用した。

（9）因子分析は、地位志向と自立私生活志向の九つの変数を含めた合計一三の変数を用いて行った。地位志向の固有値は三・二九、自立私生活志向は一・九三であり、それぞれ第一・第二因子で、この二つの累積寄与率は四〇・二％であった。バリマックス回転後の因子パターンは、地位志向の五つの変数の因子負荷量はすべて〇・六以上、自立私生活志向は〇・四以上であり、各変数の共通性は最低でも〇・四以上である。この結果、適合はかなりよいということができる。

【データの使用及び本研究の発表に関してＳＳＭ調査委員会の許可を得ました。】

Lifestyle Image of Occupation

Hirosi TAKADA

This research analyzes image of lifestyles that people conceive for occupations. I analyze eight lifestyle images that are based on the 20 occupation classifications. By means of analysis of quantification method III, I construct stereotype image of lifestyles.

It turned out that stereo-type image of occupational lifestyle held by society at large is composed of three elemental job images: prestige image, manual image and self-direction image. Some occupations are stereotyped as highly prestigious. These occupations are medical doctor, municipal office manager, engineer, and elementary school teacher. Another occupations are stereotyped as highly self-directed. These occupations are dress designer, carpenter, restaurant cook, retailing shopkeeper, farmer, and owner of a small and medium enterprise. Yet another occupations are stereotyped as having highly manual job image. These occupations are professional sports player, nurse, repairman, bus driver, and site foreman. As for the rest, waitress is conceived as non-manual, policeman is conceived as non-self-directed, and clerk is imaged as non-prestigious. It is obvious that these three elemental job characteristic images are essential to stereotype of occupational lifestyles image.

I investigate the relation of this image with actual occupation and lifestyle by multi-regression analysis. For the result, people who engage in an occupation that has an affirmative image of a prestige, an self-direction or a manual (skilled) held by people at large, come to neglect stereotyped occupational image, by spending other native lifestyle. On the other side, people who engage in an occupation that is thought negative at an image of either has more stereotyped images of life styles of occupations, by spending a lifestyle of the same image.

Key Words

Lifestyle
Image of Occupation
Image of Lifestyle
Evaluation of Occupation
Occupational Prestige.